



川口市立図書館

図書館だより

129号 2008.2

中央図書館 川口 1-1-1	(227)7611	前川図書館 前川 1-3-18	(268)1616
新郷図書館 東本郷 1688	(283)1265	横曽根図書館 仲町 10-16	(256)1005
戸塚図書館 戸塚東 3-7-1	(297)3098	芝北文庫 [芝北公民館内]	(227)7611

パソコン用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/docshp/index.html>

携帯電話用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/opw1/IMD/IMDMAIN.CSP>

携帯用 QR コード



わたしの今年の一冊 2007

昨年お読みになった本の中で印象に残った一冊をあげていただく「わたしの今年の一冊」は今回で13回目となりました。70点以上のたくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で24点、掲載させていただきます。

ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

『青い鳥』 重松 清

新潮社 913.6/シ

人と人が接する時、やはり一番のキーポイントは「心」なのだと感銘しました。現在、このような教師が何人いるのでしょうか？

(30代女性)

『赤い指』 東野圭吾

講談社 913.6/ヒ

親子のあり方(祖母 - 両親 - 子)を考えさせられる1冊でした。昔とは違い、核家族が閉鎖的になっている現状だから起こりうる事件だと、考えさせられました。

(30代女性)

『アマゾン、インディオからの伝言』 南 研子

ほんの木 296.2/ミ

私たちの生活がどれだけぜいたくや無駄が多いか、自然を(地球)を壊しているのは、テロや戦争だけでないことを知りました。

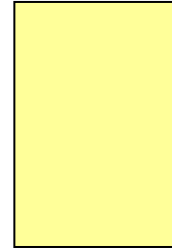
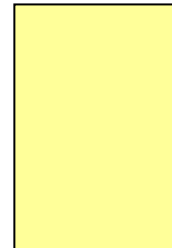
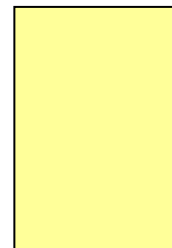
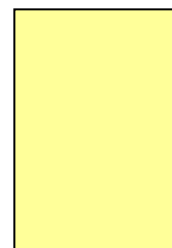
(30代女性)

『生きる』 乙川優三郎

文藝春秋 913.6/オ

武家社会の制度的矛盾が1人の武士の生き方を通して文学的に表現され大変興味深く読めた。

(70代男性)



『一瞬の風になれ(1~3)』 佐藤多佳子 講談社 913.6/サ
また、昔のように走りたくなりました。緊張感やバトンを落としたりしたら・・・という不安、自分自身との戦い。仲間との関係。あ~青春って、いいなあ~と本気で思いました。力いっぱい全速力で走りたい。でも走ったら、ころぶだろうな~!
(40代)

『居眠り磐音江戸双紙(1~23続刊中)』佐伯泰英
双葉社 B913.6/サ
謙虚さ、やさしさ、強さを兼ね備えた、岩崎磐音に魅了されました。深川から川口善光寺様におまいりもあり、身近に感じました。
(60代)

『外国語で発想するための日本語レッスン』 三森ゆりか
白水社 810.7/サ
目からウロコが落ちるようなというたとえがそのままあてはまった。欧米流の言語(文章)主体の意志疎通の本質が平易に学べる書です。外国人と交流する際には、ぜひ、身につけておきたい基本が学べた。
(40代男性)

『風が強く吹いている』三浦しをん 新潮社 913.6/ミ
箱根駅伝を目指す落ちこぼれ陸上部の奮闘ぶりに胸が熱くなりました。三浦しをんさんらしい軽快な文章にページを繰る手も早くなったような気がします。「陸上もの」一番のおすすめです。
(40代女性)

『くちぶえ番長』 重松 清 新潮社 B913.6/シ
小学生だった頃、好きだった女の子を主人公にした、サイコーのヒロイン物語。読んでいると自分の子供のころの思い出が浮んでくる一冊です。
(20代男性)

『犬身』 松浦理英子 朝日新聞社 913.6/マ
犬の心理描写をここまで書いたのを読んだのは、初めてです。読みながら自分が犬になったような気分でした。遠い昔に読んだ「我輩は猫である」はこんな気持ちにさせてくれるのかどうか・・・。また読み返してみようと思いました。
(30代女性)

『恋空(上・下)』美嘉 スターツ出版 913.6/ミ
ヒロ、優、などのやさしさがよかった
(10代女性)

『鹿男あをによし』万城目学 幻冬舎 913.6/マ
あまり期待していなかったのに、すごくおもしろくてビックリした。一気に読みました。いろいろな人におすすめしています・本当にあったらいいなと思った。

『死顔』吉村昭 新潮社 913.6/ヨ
若い時から病に苦しみ悩み人に対しての優しさ思いやり冷静に人を見る目教えられることが多かったです。お亡くなりになったのが残念です。ショックを受けました。

『宿澤広朗 運を支配した男』加藤 仁 講談社 289.1/シ
予約して2ヵ月後読むことが出来たこの本。彼の熱い一生の共鳴か？ラグビー、銀行勤務等は、沢山の努力をし、太く短く過ごした人生は、魂を揺さぶられる。現代社会に人よな人物だった。一読を！
(60代女性)

『「星座」になった人』天満ふさこ 新潮社 289.1/ア
芥川龍之介の3人の子供で次男の多加志さんにまつわるお話。若くして戦争のために亡くなられたが、生きている間に書いた「星座」という雑誌を、ほんの少しの手がかりをもとに、ついには著者が手に入れることになる。その中に書かれていた多加志さんの作品を読んだあとは、つくづく戦争などなくなってほしいと思った。

『できる社長は机が小さい』白井由妃 ベストセラーズ 159.4/ウ
全ての人を読むべき本です。運をよくする心がけや習慣の紹介は、きっと何かを感じさせてくれることがあります。オススメです。

『ひとりずもう』 さくらももこ 小学館 914.6/サ

著者の青春時代をテーマにした本で、短大生の時、ついに小さい頃からの夢である漫画家デビューを果たすところで、この本は終わります。学生時代のエピソードも数々あり笑えますが、何より夢を実現するための懸命な努力が伝わり、感動の余韻が残ります。自分にも違う夢があるので、とても励まされる1冊。おすすめです。

(20代女性)

『名もなき毒』 宮部みゆき 幻冬舎 913.6/ミ

“黒い家” 貴志裕介のような難解な女性の行動がこわかった。でも今時の事件の中には、自分勝手な動機で行動しているパターンが多いのでこういう人がふえているのかもと考えさせられた。

(30代女性)

『ひとり一匹』 穴澤 賢

アーティストハウスパブリッシャーズ 645.6/ア
一匹の犬を飼ってから、著者の気持ちに変化がおこり、少しずつ、心を開いて生活にメリハリが付き、相棒として犬と生活することの幸せを感じた。

(50代女性)

『ホームレス中学生』 田村 裕 ワニブックス 779.1/タ

芸能人の方が書かれた本とは知らずに、一気に読みました。ある日突然、家族がバラバラになり、どこにもいくところがなくなり、公園での寝泊りの生活が始まってしまい、いったいどうなることかと…。主人公たちを周りの人々が暖かく助けていく場面では、胸がジーンとしました。困ったときには、やさしく手を差し伸べてあげられる人になりたいです!

(40代男性)

『ボーンコレクター』 ジェフリー・ディーヴァー

文藝春秋 933.7/デ

職務中の事故で肢体麻痺になったリンカーン・ライムが凶悪犯と頭脳戦をくりひろげ追いつめ、つかまえるまでの物語です。“映画でやってたなあ”と手にとったのが始まりで、見事にはまってしまいました。シリーズ化されて現在も新刊が続刊中です。毎回、最後のどんでん返しも楽しみです。

『水の時計』初野 晴

角川書店 913.6/八

脳死状態の少女が、機械を通じて、一人の少年を通じて、人々のために臓器を提供する場面が、印象に残ります。ミステリーながら「人々のために自分は何ができるのか」というものを教えてもらった奥深い物語です。

(10代女性)

『ミッキーかしまし』西 加奈子

筑摩書房 914.6/二

久々に本を読みながら大笑いしました。ストレス解消にいい本だと思います。

(30代女性)

『楊令伝(1~4続刊中)』北方謙三 集英社 913.6/キ

同氏の前作「水滸伝」を凌ぐスケールで描かれている作品。登場人物一人ひとりの魅力、迫力ある戦闘風景の描写、実在の人物をからめた歴史小説の面白さなど、非常に魅力的な長編小説に仕上がっています。この作品は「今年の一冊」どころか、私にとっては「生涯の一冊」になるかもしれません。

(30代男性)

紙面の関係で、お寄せいただいたご感想のすべては、掲載できませんでした。書名だけでも、次にご紹介させていただきます。

『アドルフ・ヒトラーの青春』アウグスト・クビツェク、『アマゾン インディオからの伝言』南 研子、『幾山河』瀬島龍三、『運命の方程式を解く本』高橋佳子、『沖田総司伝私記』菊地明、『グアンタナモ収容所で何が起きているのか』アムネスティ・インターナショナル日本編、『黒い海岸の女王(コナン全集)』ロバート・E・ハワード、『下駄箱のラブレター』河並進編、『コーラン(上・中・下)』、『カネ持ちの陰謀「年収格差100倍時代」の生き方「基礎の基礎」』森永卓郎、『神との対話(1~3)』シール・ドナルド・ウォルシュ、『くちぶえ番長』重松清、『使命と魂のリミット』東野圭吾、『すてきなあなたに』大橋鎮子、『<世界>を書く技術と思想』山本武信、『世界を変えるお金の使い方』山本良一、『戦争(上・下)』朝日新聞テーマ談話室編、『卵の緒』瀬尾まいこ、『ターン』北村薫、『天涯の花』宮尾登美子、『特攻と日本人』保阪正康、『覇者の系譜(全3巻)』伊藤浩士、『麦の海に沈む果実』恩田陸、『モルヒネ』安達千夏、『門』夏目漱石、『陸軍潜水艦隊』中島篤巳、『私のしあわせ図鑑(動物編)』津田直美、『わん くら』粥川みどり、『チーム・バチスタの栄光』海堂尊、『銀の海金の大地(1~11)』氷室冴子、『サッカーはともだち』千葉幹夫、『衣世梨の魔法帳』那須正幹、『バッテリー(全6巻)』あさのあつこ、『カレーのひみつ』青木萌、『都会のトム&ソーヤ』はやみねかおる、『こんにちは! 盲導犬ベルナ』郡司ななえ、『タンタンのしろくまくん』いわむらかずお、『泣いちゃいそうだよシリーズ』小林深雪、『ひめゆりの少女たち』那須田稔、『恋愛心理学』齊藤勇。

お読みになりたい本が見あたらない時は、どうぞカウンターへお申し出ください

ちよびっぴんくらぶ

ネット等から『予約』をされるかたへ

日頃から、川口市立図書館をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

多くのかたにご利用いただいております『インターネット・館内利用者用検索機での予約』ですが、シリーズ物（1.2.3・・・巻、上下巻等）を予約される場合、順番どおりやセットでの予約指定が、システム上できません。

これまで、図書館ができる範囲で調整しておりましたが、4月1日予約分からは、用意できた順番での提供とさせていただきますので、ご了承ください。 セットや順番どおりの提供を希望される方は、お手数ですが、カウンターで予約カードを出していただき、ご相談ください。

Q・どうして今までどおり調整できないのですか？

A・図書館で調整する場合、利用者のかたのご意向を再度電話等で確認してまいりました。また、何冊か揃っていても、最後の一冊（「あと第一巻目で揃う」「あと下巻で揃う」場合など）は、確保してから提供するまで、お時間がかかってしまう事例が増加しています。また、ネット等での『予約』が増えている中で、対応が非常に困難になっております。ご理解の上、よろしくお願いたします。

